

都市再生整備計画 事後評価シート
高梁中央地区

平成29年11月

岡山県高梁市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岡山県		市町村名	高梁市		地区名	高梁中央地区(たかはしちゅうおうちく)			面積	94ha		
交付期間	平成27年度～平成28年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	1,507百万円	国費率	0.483				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 道路(高梁駅柿木町線)、高次都市施設(バスセンター)、中心拠点誘導施設(図書館)、高質空間形成施設(高梁駅柿木町線 シェルター、電線類地中化)									
			提案事業										
	当初計画から削除した事業		基幹事業	事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
			提案事業										
	新たに追加した事業		基幹事業										
			提案事業										
交付期間の変更	当初変更	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
				基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
	指標1	図書館利用者数	人	27,794	H26	50,000	H29	-	55,851	○	あり なし	備中高梁駅、バスセンターに直結するなど図書館へのアクセスが容易になったことにより、利用者が増加傾向にある。	平成30年2月
	指標2	複合施設利用者の満足度	%	14	H26	24	H29	-	80	○	あり なし	駅に直結して複合施設(図書館、バスセンター、観光案内所、書店、飲食店等)が整備され、利便性が向上したことから、利用者の満足度が大幅に改善した。	
指標3	エリア内の歩行者通行者数	人	4,679	H26	5,150	H29	-	5,671	○	あり なし	複合施設の整備に併せて、備中高梁駅周辺の歩道整備を行い、安心・安全な歩行空間を確保したことで、歩行者が増加した。		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1			基準年度		目標年度	モニタリング	評価値					
4)定性的な効果発現状況	・高梁市図書館新設に伴い、来館者数が10万人や20万人を突破した際に山陽新聞や朝日新聞、西日本放送every.で取り上げられるなど、高梁市だけでなく、全国的に情報発信されることとなった。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										
	住民参加プロセス	備中高梁駅周辺の建設工事説明会	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				○	説明会で出された意見を参考に、今後の維持管理を行う。					
	持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										

様式2-2 地区の概要

高梁中央地区(岡山県高梁市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 都市機能を維持することでにぎわいや活力を創出し、世代を越えて安全・安心で効率的に暮らせることに配慮したまちづくりを進める。 目標1: 情報発信、交流の拠点である中心市街地の機能充実を図る 目標2: 都市機能集積を進め、自動車から歩行や公共交通への転換による交通弱者にも負担の少ない都市基盤づくりに取り組む	図書館利用者数	人	27,794	H26	50,000	H29	55,851	H29
	複合施設利用者の満足度	%	14	H26	24	H29	80	H29
	エリア内の歩行者通行者	人	4,679	H26	5,150	H29	5,671	H29
	単位:							



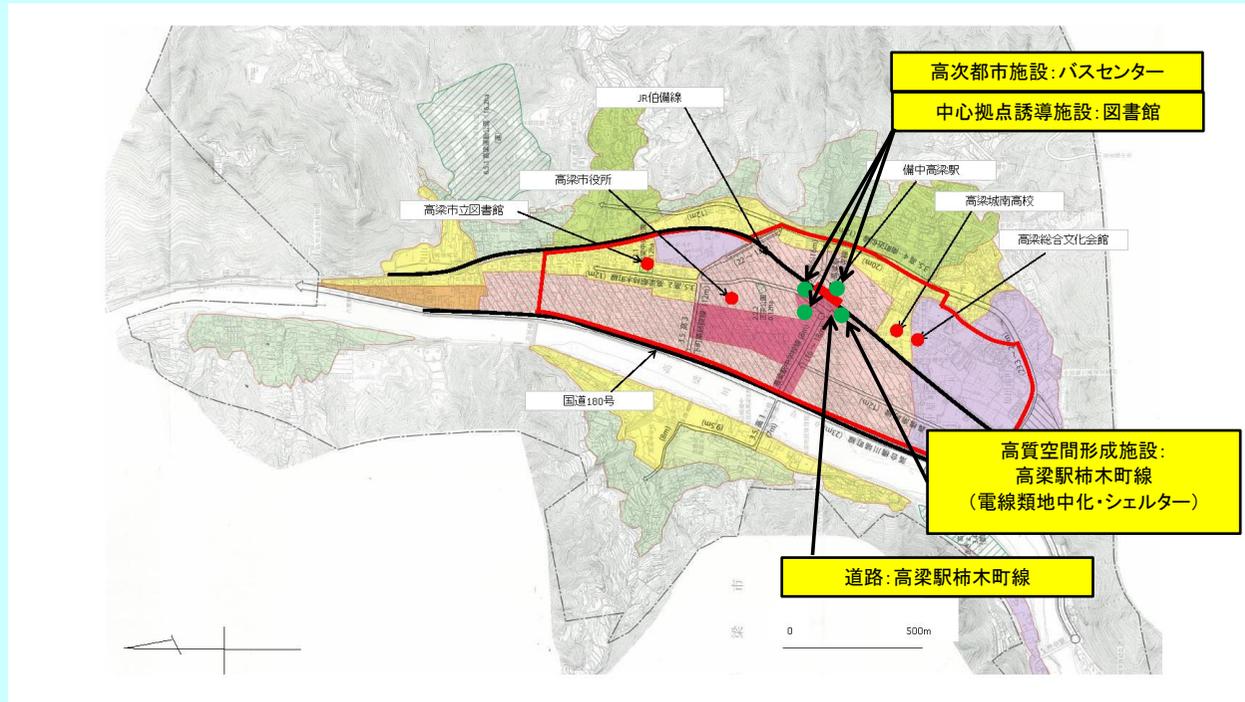
備中高梁駅



高梁市図書館



高梁駅柿木町線歩道



高梁市役所



備中高梁駅東口広場



備中高梁駅西口広場

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の核となる公共施設の整備とあわせて、コンパクトシティならではの、効率的な移動や施設利用などが可能となる拠点整備が求められている。 中心市街地の核となる施設の整備とともに、市街地の回遊性を高め、交通弱者にも負担が少ないまちづくりが望まれる。 中心市街地の幹線道路の一部ではバリアフリー化や歩道の整備も不十分であり、安心して歩ける歩行者空間の確保が望まれている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地となる備中高梁駅周辺は、将来のまちづくりに対応した道路整備と、東西駅前広場の一体的な利用等における利便性や安全性の向上を掲げている。 少子高齢化の進展、空き家、空き店舗の増加に伴う地域活力の低下などの直面する課題に対応し、将来を見通した都市としての持続的な発展と中核機能の明確化を図るため、中心市街地では「都市空間の整備・再編」「中心市街地の活性化」「歴史的町並みゾーンと市街地の回遊性の向上」に係る事業を計画・検討している 人口減少や少子高齢化の進展、空き家の増加など新たな課題に対応し、各地域の中心部としての機能の見直しや再編、生活基盤整備、地域間の連携を図り、地域の持続的な発展と魅力あるまちづくりを推進する。